2020 年 9 月 4 日

報道関係者各位

水 ing 株式会社

「KOBE ハーベストプロジェクト」が国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）受賞

水 ing 株式会社（社長：中川哲志）のグループ会社である水 ing エンジニアリング株式会社（社長：池口学、本社：東京都港区）は 9 月 1 日、第 13 回国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞／イノベーション部門）を神戸市、JA 兵庫六甲と共同で受賞いたしました。

国土交通省では、健全な水循環や資源・エネルギー循環を生み出す 21 世紀の下水道のコンセプト「循環のみち下水道」に対応する優れた取り組みを、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」として 2008 年（平成 20 年）度から毎年表彰しています。

肥料の三大要素の一つであるリンは食料生産において不可欠な資源ですが、日本ではほぼ全量を現在輸入に頼っています。一方で、下水にはリンが含まれていることから、当社は神戸市と共同で下水中のリンを効率的に回収する取り組みを 2012 年(平成 24 年)度から開始し、それを「こうべ再生リン」と名付け肥料としての有効利用を進めてきました。これまでに「こうべ再生リン」を配合した「こうべハーベスト肥料」が、キャベツやスイートコーンなどのこうべ旬菜等の野菜や学校給食米（きぬむすめ）の栽培に使用され、地産地消による資源の循環が生まれています。

水 ing グループは、今後も先進的なテクノロジーで水循環や資源・エネルギー循環を創出し、持続可能な社会の実現のために貢献してまいります。

【参考】

「こうべ再生リン」とは

神戸市の東灘処理場で下水汚泥から生産された「リン酸マグネシウムアンモニウム」の肥料名称であり、リン 20%と窒素 4%とマグネシウム 11.5%が含まれている。均質な形状で、効き目の長い緩効性の肥料。

〇こうべ再生リン

「こうべハーベスト肥料」とは

「こうべ再生リン」を配合し、こうべ旬菜等の野菜や学校給食米（きぬむすめ）の栽培に使用している肥料。園芸用の「こうべハーベスト 10-6-6-2」と水稲用の「こうべハーベスト水稲一発型」があり、どちらの肥料も JA 兵庫六甲・神戸西グリーンセンター（神戸市西区平野町印字 660-1）で販売している。

○ こうべハーベスト 10-6-6-2（こうべ再生リン 20%配合）こうべ旬菜等の園芸用肥料
／肥料成分（窒素　10%、リン　6%、カリウム　6%、マグネシウム　2%）

○ こうべハーベスト水稲一発型（こうべ再生リン 15%配合）きぬむすめ用の水稲用肥料
／肥料成分（窒素　18%、リン　13%、カリウム　13%、マグネシウム　1.5%）

「KOBE ハーベストプロジェクト（神戸市東灘処理場）」
https://www.swing-w.com/solution/gmuuho0000002uvn.html
https://www.sec.swing-w.com/products/f5e45g00000006pa.html

「汚泥資源化設備　リン除去・回収装置(リフォスマスター®シリーズ)」
https://www.swing-w.com/technology/facilities/s42.html

＜国土交通省 WEB サイト＞ 国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」とは
https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/sewerage/mizukokudo_sewerage_tk_000688.html

＜神戸市 WEB サイト＞ 都市と農村をつなぐ「KOBE　ハーベスト(大収穫)プロジェクト」
国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）の受賞
https://www.city.kobe.lg.jp/a78445/press/20200901301501.html

お問合わせ先　水 ing 株式会社　広報部　　e-mail:pr.news@swing-w.com Tel:03-6830-9075

令和２年度（第13回）国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）

イノベーション部門

都市と農村をつなぐ　KOBE ハーベストプロジェクト

神戸市　JA 兵庫六甲　水 ing エンジニアリング

受賞事例の概要　神戸市では、下水からリン（こうべ再生リン）を回収し、肥料に活用。市民や関係団体との連携により、資源の循環が生まれています。

有効利用拡大への更なる取組

PR ポイント！

こうべ再生リンを配合したこうべハーベスト肥料が、神戸ブランドの野菜や学校給食米の栽培に使用され、地産地消による資源循環が生まれています。JA 兵庫六甲と神戸市が連携協定を結び、リンの地域循環、食育活動に協働で取り組んでいます。

取組の効果！

地元農家から、「捨てられていたものを使う素晴らしい仕組み。給食を通じて、子供たちに資源の巡りも伝えられる。」と評価されています。出前授業は、子供たちが下水道資源の有効利用と農作物の地産地消を学ぶきっかけになっています。

Key Person

JA 兵庫六甲　神戸営農統括　児玉充弘
ゼネラルマネージャー

農業用資材、特にリンの大部分が輸入に頼っている中で、地域内で資源循環の　しくみができることは、SDGs の観点からも非常に重要なことだと感じております。

「こうべ再生リン」を使用し、神戸産農産物による地域内循環を進めていくことで、資源・農産物・地域を繋ぎ、消費者にもその取組みを理解してもらう活動を今後も行っていきます。資源循環を含めた地産地消がより大きな輪に広がっていくことを期待しています。